

2025 年度船舶基準セミナー
～IMO における GHG 排出削減に関する取組状況及び関係者の取組状況～
プログラム

2025 年 1 2 月 16 日（火） 14 時 00 分～16 時 25 分

13:30～ 開場

14:00～14:05 開会挨拶

一般財団法人 日本船舶技術研究協会 会長

田中 誠一

<第一部>

14:05～14:30 IMOにおける国際海運のGHG排出削減に関する議論動向

国土交通省 海事局 海洋・環境政策課 環境渉外室長

塩入 隆志 様

（講演概要）

IMOでは、新たな国際海運GHG排出規制である「IMO Net-zero Framework」を含むマルポール条約改正案について議論が行われています。本年10月に開催された臨時海洋環境保護委員会（MEPC/ES.2）では、条約改正案の採択の議論を1年間延期することが決定されています。本セミナーでは、条約改正案の概要と今後IMO加盟国に求められる必要な対応についてご説明いたします。

14:30～14:55 日本郵船の脱炭素戦略と IMO 燃料規制：ネットゼロへの道筋

日本郵船株式会社 脱炭素グループ 脱炭素推進チーム チーム長 柿沼 徹也 様

（講演概要）

国際海運の脱炭素化について、当社の2030年45%削減・2050年ネットゼロという野心的な目標設定と実現戦略、バイオ燃料の劇的な拡大やデュアルフューエル船導入などの具体的な進捗状況、IMOのGFI規制による燃料転換促進とサプライチェーン全体でのコスト分担の仕組み、そしてバッテリーやe-fuelなど代替燃料の技術的課題やScope3開示義務化を踏まえた今後の業界展望についてご説明いたします。

14:55～15:05 第一部質疑応答

15:05～15:25 ブレーク

＜第二部＞

15:25～15:50 脱炭素社会に向けたNSYの取り組み

日本シップヤード株式会社 執行役員

設計本部 基本設計部 部長（企画開発担当）兼 アンモニア燃料船開発部 部長
橘 洋一 様

（講演概要）

脱炭素に向けた世界的な取り組みが進められる中、海運業界では IMO（国際海事機関）において、2050年頃までに国際海運からのGHG排出量をゼロとするためのロードマップとして、GHG削減戦略が策定されました。

海運業界にとって、これは非常に高い目標であり、海事クラスターの総力を結集して 目標の達成に向け取り組んで行く必要がありますが、本講演では、カーボンニュートラルに向けた日本シップヤードにおける取組について、紹介します。

15:50～16:15 UE エンジンのカーボンニュートラルに向けた取り組み

株式会社ジャパンエンジンコーポレーション

アンモニア燃料エンジン開発推進室 室長 三柳 晃洋 様

（講演概要）

当社では、大型低速2ストロークエンジンのライセンサーとして海運のカーボンニュートラルに向けた取り組みを進めています。

カーボンフリー燃料を使用するエンジン開発は、国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「グリーンイノベーション基金事業/次世代船舶の開発」プロジェクトにて取り組んでいます。

本講演では、本年8月に完成させたアンモニア燃料エンジン7UEC50LSJA機関の開発状況を運転結果とともにご説明します。

並行して開発を進めているUEC60LSJA機関についてもご紹介します。

また、水素燃料エンジン6UEC35LSGHの開発状況についてもご紹介します。

16:15～16:25 第二部質疑応答

16:25 閉会

※プログラムは都合により変更になる場合がございます。